

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群Ⅰ 対人支援者としての基礎・基本を学ぶ 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-1-1	国家資格としての公認心理師	I	○	公認心理師の成立までの歴史とともに国家資格化の意義を学ぶことを通じて、主に①法の下での責任感や倫理観、②社会の付託により、国民のために働くことの意味、③名称独占資格であることと自己研鑽の必要性、について理解を図りたい。その上で、今後公認心理師としてどのように学び成長していくのかについて、一人一人が考える内容とする。	村瀬 嘉代子(公認心理師試験研修センター、顧問 大正大学、名誉・客員教授)	◎	41分 42分
		II					
		III	○				
		IV					
		V	○				
C-1-2	基本的人権の尊重と今日的課題	I	○	世界人権宣言以降の日本における人権に関する認識の展開や日本国憲法の定める基本的人権について学ぶことを通じて、人間の固有の尊厳や個人から派生する多様性の理解の端緒とする。実務者として、生命、身体の安全、発達の権利など、現代社会における様々な課題を知り、当事者のニーズを把握することや、権利擁護の視点を持てるような内容とする。	岩佐 嘉彦(日本子ども虐待防止学会理事長、弁護士)	◎	60分
		II	○				
		III					
		IV					
		V					
C-1-3	人々の権利を守る社会制度の仕組み	I	○	性別、人種、障害などにより、差別や偏見などを受けやすい、いわゆる社会的少数者(マイノリティ)といわれる当事者の現状を知り、当事者が求めるニーズや、支援を行うための法律や制度を理解する。実務者として、人々の多様性についての理解と最善の利益を追求することの意義を理解できる内容とする。	増沢 高(子どもの虹情報研修センター、研究部長) 高橋 温(NPO法人子どもセンターてんぼ理事長、弁護士) 畑山 麗衣(NPO法人Giving Tree、ピアカウンセラー)	△	48分
		II	○				
		III					
		IV					
		V					
C-1-4	生命倫理	I	○	人工授精や臓器移植など、科学の進歩に倫理観が追いつけていない問題がある。今後はますます既存の価値観では捉えきれない多様な状況に置かれることが予想される。このような状況において、実務者が何を基準に物事を考えていけばよいのか考える機会とする。	香川 知晶(山梨大学、名誉教授)	◎	67分
		II	○				
		III					
		IV					
		V					
C-1-5	人間のこころにひそむもの	I	○	人間が社会生活を送る上で、法律や規範を逸脱してしまうことがある。例えば、精神障害を有して、判断能力に欠いているときである。そのような場合、その人に治療を優先すべきか、刑罰を選択すべきかが問題となる。罪を人間はどのように考え、どのように支援すべきか、考え続けていかなければならない根源的な本質的な問いである。このような事例を通して人間理解を深められる研修内容とする。	森岡 正芳(立命館大学、教授)	◎	60分
		II	○				
		III					
		IV	○				
		V					

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群 I つづき 対人支援者としての基礎・基本を学ぶ 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-1-6	法制度と職業倫理のジレンマの中で	I	○	職業倫理は、単に法律上の規定に基づきそれを遵守することによって担保されるものではない。特に心理的支援の実践においては、しばしばジレンマが生じる。法制度に対する葛藤を抱えながら、心理専門職としての倫理観に基づき支援を堅持しなければならない機会も多くある。具体例をもとに公認心理師をめぐる法制度の職業倫理の課題を改めて意識し、実務においてしばしば生じる、例えば支援者と被支援者との適切な距離を保てなくなるような場面を通して、実践的な倫理問題に触れ、一人ひとりが適切な心理的支援とは何かを考えるようにする。	古村 健(国立病院機構東尾張病院、心理療法師)	◎	61分
		II					
		III					
		IV					
		V	○				
C-1-7	多職種連携・協働の理念	I		対人援助において、なぜ多職種連携が必要なのかを掘り下げ、その基本的な理念、協働の意義と面白さについて学ぶ。多職種連携において協働でできること、心理職としてできること、その姿勢について学ぶ。5分野における多職種の機関の性質や機能、職種ごとの仕事内容や現状、援助者の価値観などを理解し、具体的にどのような連携ができるのかを取り上げる。	中尾 智博(九州大学、教授) 石隈 利紀(東京成徳大学、教授)	○	74分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V					
C-1-8	連携・協働に必要な実践力 ①情報共有するための事例の記録と報告	I		多職種連携・協働には対人援助職の持つコミュニケーション力が重要である。ここでは情報の共有に焦点を当てる。どのようなタイミングで、いかに適切に情報共有できるか、どのように伝達するか、その課題と在り方について理解する。さらに、情報と援助方針を共有するための記録・報告の具体的な方法について学ぶ。	増沢 高(子どもの虹情報研修センター、研究部長) 橋本 和明(国際医療福祉大学、教授)	○	60分
		II					
		III					
		IV	○				
		V	○				
C-1-9	連携・協働に必要な実践力 ②連携・協働するためのコミュニケーション・相互コンサルテーション	I		多職種連携・協働のプロセスに焦点を当てる。心理職は、コンサルタントにもコンサルティにもなる。コンサルタント、コンサルティとしての態度・スキルを獲得する。	三宅 美樹(株式会社トヨタ車体研究所) 田村 節子(東京成徳大学、教授)	○	95分
		II					
		III	○				
		IV					
		V	○				
C-1-10	心理職としての成長とトレーニング	I	○	心理職としての力量を高めるために、必要な事柄について広く理解し、自身が成長していくために心がけることやそのための実践的トレーニング、学びの方法等について知ることとおして、日々の業務にあたる基本的姿勢を考える。本研修では、心理職としての実力を磨くための訓練方法を紹介するとともに、心理職者の成長過程等に関する研究結果を参考に、心理職として成長していくプロセス等を学ぶ。受講を通じて、生涯にわたる学習への動機づけや意欲を高め、公認心理師資格を取得し、実務を行っていくために役立つ道標の一つとしてもらいたい。	岩壁 茂(立命館大学、教授)	◎	60分
		II					
		III					
		IV					
		V	○				